

第二回 高二国語

総評

時間制限の厳しさもあってか、白答も目立った。まずは文法事項・重要単語といった基本知識を確認し、少しでも解答欄を埋めることを心がけよう。復習する際には、時間を気にせずに丁寧に解答を作ってみることが大切だ。古文・漢文は全訳や書き下しを自分で作り、話の展開を押さえてから、再度問題に取り組むとよい。

問題別講評・採点基準

一 評論

(一) 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。  
(d) 「二環」を同音異義語の「二貫」とするもの、「二還」「二慣」などと誤るものが目立った。まず文脈を把握し、どのような意味の語が入るのかを確認すること。

(二) (x) 〈正確かつ適切に表現している〉という語義を踏まえた解答はほとんど見られなかった。ニュアンスはわかっているが、三字という短い字数で端的にまとめるのは難しかったかもしれない。この機会に辞書での意味も確認しておいてほしい。

(y) 「採点基準」

「a 人の b 不注意や怠慢から生じる a 災害」と押さえて 5 点

\* a 部 3 点、 b 部 2 点。

〈人が引き起こす災害 〉という a 部はおおむね押さえられていた。字数制限を踏まえ、〈過失や無策によつて生じる〉という b 部の要素も含めること。

(三) 「採点基準」

「a 普遍的原理ですべて対応できるとは限らず b 予測できないトラブルの生じる可能性が c 大もとにある」点を押さえて 10 点

\* a 部 4 点、 b 部 4 点、 c 部 2 点。  
〈普遍的な原理で対応しきれない〉という a 部の要素は押さえられている答案が多かった。だが、それだけでは「根源的な不確実性」とはどういうことかの説明にはならない。傍線部直前の「二〇〇パーセントの安全もそもそもあり得ない」という表現をそのまま使う答案も見られたが、その理由を説明しなければならぬので、「不確実性」を〈予測できないトラブルの生じる可能性〉、「根源的」を〈大もとにある〉などと言い換えてまとめる必要がある。

(四) 「採点基準」

「a トラブルの発生時に自動的にそれを最大限に回避するシステムのフェイル・セイフは、b 無限に作れないがゆえに割り切つて作るしかないのに、その割り切り方が難しく、c しかも、このシステムが働いたとき、それが機械の誤作動か否かの判断も難しい場合があるため」と押さえて 16 点

\* a 部 6 点、 b 部 6 点、 c 部 4 点。  
〈フェイル・セイフはどこかで割り切らなければ

ならないシステムである〉という要素はおおむね押さえられていたが、「完全なものとは言えない」理由を説明するためには、〈その割り切り方が難しい〉点を明示し、さらに文中で説明されている〈誤作動か否かの判断が難しい〉点まで含めなければならぬ。字数制限が百二十字と多めなので、自分の解答は必要な要素を網羅できているか、因果関係を正しく説明できているかに注意して復習するとよい。

(五) 白答も見受けられたが、おおむねよくできていた。解説で示したように、各段落の論理展開を丁寧に押さえていくことが大切だ。

(六) 誤答は (イ)・(ロ) が目立った。選択肢はいずれももつともらしく見えるが、筆者の「二〇世紀型科学技術」に対する問題意識を押さえ、選択肢一つ一つを丁寧に検討してほしい。

二 小説

(一) (a) (c) ともよくできていた。語句の問題や漢字の問題は確実に得点できるようにしておきたい。

(二) 「採点基準」

「a 激痛に耐える美雪を見守るといふ緊張から解放されて気が緩んだ遠井に b 不意に安楽死の是非という深刻な問いを投げかけ c 衝撃を与える」点を押さえて 11 点

\* a 部 4 点、 b 部 4 点、 c 部 3 点。  
「横蹴り」なので、予想していなかった衝撃とい

うことになるが、「遠井が思ってもいなかった安楽死」という言葉を持ち出し、遠井の不意について驚かせるといふ行動」は説明として物足りない。緊張から解放されて「ほっとした瞬間」に投げかけられた予期しない問いなので、衝撃が大きかったのである。この点からもc部は「困らせる」「困惑させる」程度では弱い。「くらわす」には、「相手の欲しないものを与える」という意味がある。「横蹴りをくらわす」という表現から、遠井の受けたショックの大きさを説明してほしい。

(三) 誤答は(ウ)が目立った。このような選択肢の問題を吟味する際には、問題文と選択肢とを一つ一つ照らし合わせて丁寧に確認していく必要がある。「治療にはさらなる苦痛を伴い、必ずしも助かる保障もないため」は問題文から読み取れない内容である。

(四) 誤答は(イ)が目立った。この選択肢でも、「せめて美雪の前では明るくあろうと決意している」は問題文のこの場面からは読み取れない。

(五) 〔採点基準〕

※ a それまでは自分の身に実際に起こるとは思えず、あくまでも想像上のものであった死が、b 自分にも十分に起こり得る切実な問題となった。点を押さえ

\* a部7点、b部4点。

「死というものが遠井にとつては概念にすぎなかつたが、瀕死の美雪と接したことで、現実味を帯

びてきたこと」といった答案では、「観念の世界」から「波打ち際に流れ着いた」という変化についてはとらえられている。ただ、「彼」の「波打ち際」とあるから、問題文の89・90行目「そして自分の死を思った。怖かった。怖くて眠れなかった」や101行目「遠井は遠井の死を背負って生きていたのだった」といった記述を踏まえて、これが遠井自身の問題である点を明確に示したい。

(六) 誤答は(イ)(ウ)に分散した。それぞれの選択肢の場面と説明が問題文にふさわしいものかどうかを慎重に検討しよう。言い過ぎのものや明確な根拠のないものを確実に除いていくこと。

(三) 古文

(一) (イ)の意味を「使役」ととつたものがあつた。ここは「きこえ」が女御への敬意、「させ給ふ」が「帝をはじめ」とした人々への敬意をそれぞれ表している。(ウ)の意味の誤答はさまざまに見られたが、連体形が「るる」となるのは、受身・可能・自発・尊敬の「る」しかないもので、ここから解答の候補を絞れるはずだ。

(二) (a)「おぼえ」にはいくつかの意味があるが、「御おぼえ」となつていたら、「寵愛を受けること」の意であることが多い。(b)は「わたる」の意味を表せていないものが目立った。(c)は「聞こゆる」を「言われている」としたものが多かった。

(三) 〔採点基準〕

※ a 承香殿の女御に b 見たい漢籍を貸してほしいということ c 申し上げて d くれぬいか」と訳して

\* a部2点、b部3点、c部2点、d部1点。

「誰にどういふことを」という点を補つての口語訳だが、補う内容に気をとられたせいかわかり、説明問題のように「……ということ」と文末を結んだり、「……ということが聞こえているか」のように「聞こゆる」が正しく訳せていないものが多い。冒頭から、「承香殿の女御」「故式部卿宮」「大将」などの人物名が記されていることに加えて、新たに「蔵人の弁なにがし」「宰相の君」までが登場して、完全に混乱してしまつたようだ。このように登場人物の多い文章では、リード文や注の記述も見落とさずに読み進めよう。

(四) (2) (イ)の誤答がやや目立った。(3) (イ)を選んだ人は「みづから」に「御」が付いていることを見落としたりしたようだ。古文ではこのように敬語の使い方が大きなヒントになる。これからは注意しよう。

(五) 〔採点基準〕

※ a 承香殿の女御が父から伝えられた漢籍を持っていたので、b 大将に自分の恋しい思いを知らせることができた。点を押さえ

\* a b部各4点。

この設問は白答が目立った。解答が書いてあつても、「実際の事実」を正しくとらえられているものは少なかった。たとえば、「書きつくる昔の跡」を「昔

書いた手紙」と解釈したものがあつた。「跡」には(筆跡)の意味が確かにあるが、ここで女御と大将の仲をつなぐきっかけとなつたのは、女御が相続した父の漢籍である。また、「やは」の反語表現を見落として、「知らせることができなかった」と解釈したのも目立った。女性から男性にアプローチするのが、通常の古文では考えにくい状況なので、この歌を大将から女御に送られたものと考えた人もいたようだ。

(六) 誤答は(四)が目立った。「身に添はぬ心」とは承香殿の女御の詠んだ歌にある「心は身にも添はずなりゆく」を受けた表現である。和歌でのやり取りは、このように相手が詠んだ歌にある表現を受けて返歌をすることが多い。問題文に和歌が何首か出てきたら、設問になつている和歌だけでなく、その前後にある和歌にも目配りすることが大切だ。

(七) 誤答は各選択肢に分散したが、(ウ)がやや多い。問題文合致の設問では、表現の細かい点まで注意して読み、選択肢の細部にキズがないか、一つ一つ丁寧に吟味していくことが大切である。

#### 四 漢文

(一) (a) 「以為」を「もつてなす」と読んでいるものが目立った。直後に「苦痛なり」という引用が来ており、返り点がついていないことに注意。「為」という字の使い分けについて確認しておこう。

(二) 「無常生死」「其」「禿」といった誤答が見られた。「無常生死」の悩みを相談している患者に対する返答であることを踏まえて考えること。

#### (三) 「採点基準」

「a 蚊や虻に b 食われるのである」と訳して  
—— 4点  
\* a b 部各2点。

おおむね意味をpushさえられているものがほとんどだった。受身で訳出できなかった人は、基本句形を復習しておこう。

(四) 誤答は(四)が目立った。これでは「自分の悩みを真つ先に治してから自分の悩みを取り除く」ということになり、意味が通らない。文脈を正確に押さえよう。

#### (五) 「採点基準」

「a 我も亦た、b 心に、c 先づ自ら得て d 汝をして又得しむ e べし」と書き下して —— 5点  
\* a b c d e 部各1点。

特にdの部分の処理が難しかったようだ。「しむ」を「令む」など漢字のままにしてしまった人は、しっかり復習しておいてほしい。

(ii) 「a 私もまた、b きっと c まず第一に自分で長生不死の方法を得て、d さらに e あなたにその方法

を得させるに b 違いない」と訳して —— 6点  
\* a b d e 部各1点、c 部2点。

「自分が得てからあなたに得させるだろう」という大意はおおむね押さえられていたが、「言葉を補つて口語訳せよ」とあるので、何をさせるのかを明確に示さなければならぬ。第一段落と第二段落で「禿の治療法」から「不老不死を求めること」に話題が転換していることが読み取れない答案が見受けられた。全訳を参考に復習しておくこと。

#### (六) 「採点基準」

「a 不老不死を得る方法は、b いくらそれを求めても得られないもので、ただ自分が疲労を覚えるだけ」という点で、c 禿の治療法と同じだから」と押さえて —— 9点

\* a 部2点、b 部5点、c 部2点。

白答の答案も目立ったが、復習の際はぜひ自力で解答を作成してみたい。まず傍線部を口語訳し、設問で問われているポイントを探る必要がある。(禿の治療法が存在しない)という要素をふくませようとしている答案が目立ったが、全体のまとめに当たる設問なので、(不老不死を求めることの不毛さ)という第二段落の内容を踏まえて説明すること。